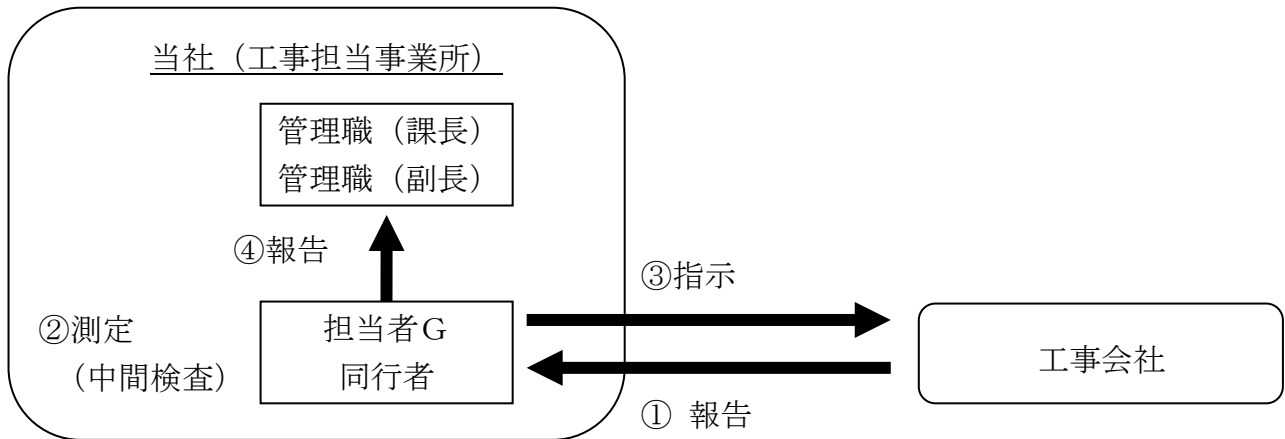


送電鉄塔の中間検査における不適切な対応について（平成26年4月）

《概要》
 上ノ山線（山形県山形市）の鉄塔建替工事に、送電鉄塔の基礎据付後に実施した中間検査において、当社社員は、基礎据付寸法の測定値が社内検査マニュアルに定める判定値を超過していたにもかかわらず、判定値に収まる値を記録に記載し、社内に報告していた。



- ① 平成26年3月、工事会社にて施工検査（基礎据付寸法測定）を実施し、結果を担当者Gに報告した。
- ② 平成26年4月、担当者Gは同行者1名とともに、上ノ山線の鉄塔1基（建替）の中間検査として基礎据付寸法を測定したところ、水準差で社内検査マニュアルに定める判定値に収まらない値が得られた（具体的な数値は不明）。
- ③ 担当者Gは、判定値を超過した状態であっても鉄塔を組立てることが可能と判断し、中間検査を合格として工事会社へ鉄塔組立を開始するよう指示した。
- ④ 担当者Gは、中間検査の報告書を作成する際、実際の測定値ではなく判定値に収まる値を記載し、その検査記録を上長へ報告した。

《設計値と実測値との差異》

項目	水平：面寸法 判定値：±13mm 以内			水平：対角寸法 同左：±20mm 以内			垂直：水準差 同左： 脚差 8mm 以内 (±8 mm以内)
	設計値	測定値	差異	設計値	測定値	差異	差異
施工検査 測定値	6, 141.5	6, 138.0	-3.5	8, 685.4	8, 681.0	-4.4	1(-1)
中間検査 報告値		6, 136.0	-5.5		8, 679.0	-6.4	3(2)
今回 測定値		6, 125.0	-16.5		8, 669.0	-16.4	14(8)

※ 単位はmm。

面寸法は4面、対角寸法は2方向のうち最も差異が大きかった面、方向の値を記載。水準差は4脚で最も低い脚と最も高い脚との差を記載。（ ）内は、基準脚（a脚）との差異が最大の脚の値を示す。